



年頭ご挨拶

会長 高橋 淳夫



在京同窓生の皆さん新年おめでとうございませす。本年も宜しくお願い申し上げます。

さて昨年は二十一世紀最初の年であり、国民から大きな信頼を寄せられた小泉内閣が発足し、明るい希望を抱いたのですが、現実には改革の遅れから日本経済は一向に良くならず、あまつさえ驚倒されるようなテロ事件が起こってアメリカ経済の転落、アフガン戦争の勃発となり世界は同時不況色を濃くすることになりました。特に長らくあがらしていた我が国は一層ひどい状況に陥らざるをえませんでした。ゼロ成長、企業倒産、人員解雇、そして銀行は不良債権の処理、企業は構造改革、政府は行革、財政再建等々日本は浮沈の岐路にありとって過言ではありません。

在京古高同窓会会報 第28号

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号 信陵会館内 在京古高同窓会事務局 ☎ (03) 3462-1225 FAX (03) 5489-1... 発行責任: 春田 孝夫 編集長: 千坂 孝夫 印刷: (株)ケーヨー

る人(高齢化少子化・教育)に基盤が揺らいできています。ここでは戦後の焦土からの復興―上下心を一つに繁栄してきた実績に思いをいたし、辛苦に耐え忍ぶこと、改革が各論になると自民族議員、官僚、地方から反論が湧き上がるが、小泉首相に頑張つて頂く以外にない。同窓会活動に目を転じますと、一月の四校合同新年の集い、三月の母校卒業式に東京宝雪賞授与(春田副会長出席)、続いて春の叙勲に伊藤前会長が勲一等旭日桐花大授章に輝き、六月に四高合同祝賀会を大丸ビルホールで開催、同窓会祝賀会は八月総会時に予定していたが先生の病氣入院のため総会、前田浩五郎教授講演会のみとなった(先生ご長男代理出席)。その後本部総会、仙台支部総会には高橋会長と横山副会長が出席している。この間思いがけなくも伊藤前会長急逝の報が入り、九月五日青山葬儀所で葬儀、同十七日帝国ホテルで伊藤先生を偲ぶ会が行われ、同窓会から会長以下十人近い人が出席した。母校始つて以来の、いや郷土として初の最高叙勲として、誇りであり喜ばしい慶事が、一転巨墜つといった悲嘆に見まわられても天命と観ざるをえないが同窓会としては格別な大行事の年だった。

=お知らせ=

第9回古川市内 四校合同新年会

- 日時:平成14年1月20日(日) 11:30~15:00
会場:上野精養軒
会費:8,000円

- 特別講演:国分 秀男氏 (古川商業高等学校 女子バレーボール部前監督、全国優勝度々)
交通案内:上野公園園口より 徒歩5分



上野公園4番58号 電話 (3821)2181

「古川から全国優勝度々のお話し」も 楽しみ
同郷の仲間と 楽しいひと時を過ごしましょう!

在京同窓会メモ

- 信陵会館に本会関係者は常勤しておりません。連絡先:〒115-0053 北区赤羽台4-8-3 菅昇 TEL/FAX 03-3907-0587
会計年度は6-5月、年会費は2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
次回会報第29号は2002年7月1日発行予定、原稿は常時受付。

新年の挨拶

古高同窓会会長 野村 喜太郎



同窓生一人一人が構成員であるが、活動となると各年次幹事が核になる。而して年次同期会活動が活発なほどまとまりが良く、同窓会活動への貢献が大きいように思う。在京古高同窓会の現況は昭五十八まで幹事はいるが、昭五十九以降はない。又昭二十一、昭三十九、昭四十三、昭四十六、昭四十八、昭五十二、昭五十七が欠番となっている。各年次欠けないで連なっているのが望ましい。同窓会の存続発展のためには、若い力を持つ若い若い年次層が多いことが望ましいが、仕事、転勤等問題が多く、うまくいっていない実情にある。先輩後輩の連携はメリットがあるという事。どうしたらいいか、具体化策の提案をお願いしたい。

創造と破壊の歴史は繰返しておりますが、よい年にと希望をもって新年を迎えられたことでしょう。皆様のご健祥をお祈りいたします。十三年秋の叙勲で、同窓生では県外では未確認です。在京同窓会関係で受章者がおられましたらご連絡下さる様お願いします。故伊藤宗一郎衆議院議長による揮毫になる古高の新しい校名看板が二回紛失し、二回とも戻って参りましたが、再々掲げようか掲げまいか学校側と数ヶ月相談し、意を決して堂々と掲げました。今の処事故なく看板も処を得て落着いておりますので、報告しておきます。伊藤宗一郎先輩の突然のご逝去、青山斎場での葬儀、帝国ホテルで報告し、寒中の挨拶とします。在京古高同窓会名譽会長故伊藤宗一郎先輩の郷里での葬儀次第を報告し、寒中の挨拶とします。

の自民党のお別れの会と在京の皆様には慌しい中ご参列下された方々も大勢だったとうかがっております。九月十一日大崎タイムス社では先輩の追悼号を編集、その折在京古高同窓会会長はじめ各支部からもご協力いただき六頁の紙面にわたりました。

郷里での伊藤家での葬儀並告別式は十月六日午後三時より中新田町町葬にてとり行われ、式場の体育館は故人を慕い、死を惜しむ人々であふれておりました。中新田町町長星明朗葬儀委員長、宮城県読経、弔辞は宮城県知事、宮城県町村会長に次いで宮城県古川高等学校同窓会会長として故人を偲んで奉読させていただきました。告別式では星明朗中新田町長、米木中新田町議会議長、三塚博衆議院議員、平野博宮城県土地改良事業団体連合会職務代理人四人の方々の追悼の言葉があり、最後に参列者の静かな献花で厳かに閉式、快晴に恵まれた日も午後五時、秋の陽もやがて西に沈まんとする夕焼けの空の下、自衛隊儀仗兵による葬送の調べの中ご遺骨は故山瑞雲寺へ。

母校の今

進路室だより

進路指導部長 笹川 清範

二学期末考査(12/3~6)が終ると三年生は正規の授業を終了し、特別編成授業に入ります。午前中は英語、数学、国語を中心に全員履修となりますが、午後は課外形式で理科、社会の選択履修となります。この期間、一月十九、二十日に実施されるセンター試験に照準を合わせたセンター試験対策の演習中心の授業になり、生徒達は、いよいよ受験本番に向けた追い込みに入ります。

今年の三年生の進路希望を見ると、大学進学希望者が昨年、一年に比べ80%から85%へと増加しています。一方で、専門学校希望者は約半数に減っています。少子化に伴い、大学の門が広がったことや高学歴志向の影響も考えられますが、生徒に幅広い教養と専門的な知識を身につけさせたいという方針から、学校長が生徒全員に対して面接指導を行った結果であるとも考えられます。

志望学部の傾向を見ると、一、三年前までは、理系学部を志望する生徒が文系学部を志望する生徒より多かったものの、昨年あたりから逆転し、今年は文系志望者が理系志望者を大きく上回っています。最近の理科離れもさることながら、地道な積み重ね学習を苦手に感じる生徒が増えてきているのではと危惧されます。

冬の到来が近づいてくるにつれ日没も早まっていますが、蛍雪会

館の二階の自学室は毎日遅くまで居残って、多くの三年生が受験勉強に取り組んでいます。古高での三年間の成果として、見事志望校突破なることを期待したいと思えます。

「みやぎ国体」の報告

古川高校教諭 渡邊 勝宏

新世紀みやぎ国体秋季大会が、去る十月十三日(土)から十八日(木)の六日間、「いいねその汗その笑顔」のスローガンのもと、県内全七十一市町村を会場に開催されました。古川市もバレーボール競技の会場地となり、本校体育館も練習会場となり、全国各地から多数の選手団が訪れました。

本大会には、本校生とも宮城選抜の一員として、ソフトボール競技四名(三年・菅原裕・佐々木信也、二年・鈴木裕規、コーチ・本校教諭・野中淳、ハンドボール競技三名(三年・石澤淳也、監督・本校教諭・石田英治郎、総務・本校教諭・渡邊勝宏)が参加しました。それぞれが選手団の主軸として活躍し、宮城県の天皇杯獲得に大きな貢献をしました。

ソフトボール競技は、矢本町を会場に開催されました。第一回戦は岡山県選抜と対戦し、本校二年鈴木木の好投もあり、6対0の大差で勝利しました。続く、準々決勝、高知県との対戦は、本県チームが先取したものの、本大会優勝投手高橋の前に追加点を得ることが出来ず、2対1の左で破れてしま

いました。ハンドボール競技は、大郷町を会場に開催されました。第一回戦は前年度優勝の富山県選抜との対戦でした。対戦前から苦戦が予想されていたものの、本校三年石澤の9メートルからのフリースローが連続して決まるなど、接戦の末、22対21で勝利を得ることができました。続く準々決勝も、強豪の伊奈高校を中心とする茨城県選抜との対戦でした。毎年、全国大会で好成績を残しているチームだけあり、スピードとパワーに歴然とした差があり、25対10のスコアで破れてしまいました。しかしながら、本県ハンドボール競技少年男子としては26年ぶりの得点獲得を果たし、価値ある一勝でありました。

本大会は、県内71の全ての市町村を会場として競技を実施し、手作り選手での総合優勝を果たすなど、21世紀に第一歩をしるす記念すべき大会でした。地元の声援を前にプレーでき、持てる力を十二分に発揮することができました。会場地、市町村関係者、選手団、競技団体関係者、それぞれが大会スローガンにあるように「いい汗」を流し、「いい笑顔」で大会を運営することができました。



第56回国民体育大会秋季大会開会式



宮城県古川市南町二丁目
宮城県古川高等学校新聞部
印刷 佐沼印刷センター

部活特集号

ソフトボール部
熊本インターハイへ
水泳部大活躍(8種目)・陸上部
東北大会へ



選手の喜びの顔……



応援団・野球部みんなの声援

第五十回宮城県総合体育大会はさる六月二日から三日間、仙台市をメインに県内各会場で熱線を繰り広げた。これより先、一週間前に終了した陸上競技では三年の阿部芳規君が三千M障害で優勝し、東北大会出場を果たした。ソフトボール部は二年連続九度目の優勝を成し遂げ、熊本インターハイ出場を決めた。水泳は六月三十日から二日間開催され、三年の渋谷健太郎君が五〇M自由形で自己記録を更新し優勝した。八種目が東北大会出場の快挙である。

二〇〇一年活動報告

ソフトボール部監督

野中 淳
(高三十九回)



昨年、逆転で白石工業 校を破り五年ぶりでインターハイに出場した。その勢いに乗って連覇を目指そうと意気込んでいた矢先、一年生エースが疲労骨折、十月の新人大会は何と初戦コールド負けを喫してしまった。前途多難な新チームのスタートだった。

十一月、来季に向けて、すっきりしない重い状態で長い冬練習のスタートを切った。その状態を断ち切ってくれたのが、けがをした一年生エースだった。一時間の坂ダッシュ、厳しいサーキットトレーニング、ウエイトトレーニングなどを試合に出られなかった悔しさのなか、先輩達に申し訳ないという思いなのか、先頭に立ち、体力ぎりぎりまでがんばった。そんな姿に二年生が感じないわけはなく、彼に引きずられ充実した基礎トレーニングとなった。

初回到1点先制されたものの復活したエース鈴木木の好投でその後無失点、打線が奮起し、後半7点を奪取、六月の高校総体シード権を奪った。

そして六月中新田町においての高校総体、準決勝東北高校を15-3のコールドで快勝し、いよいよ連覇をかけ決勝戦に臨んだ。相手は昨年同様白石工業高校、今年のチームは昨年と違い、宮城国体の主力チームとして計画を立て、例年以上に強化し、また、昨秋東北大会を制し、春の全国大会に出場している。新チームになってほとんど負けがなかった。冬季の厳しい練習に耐え、チーム全体我慢強さを身につけたものの、選手達はやや不安を持って臨んだ。そんな中、地元大崎会場ということもあり、応援団並びに野球部員等たくさんの人達が大声を張り上げ、われわれを勇気づけてくれた。

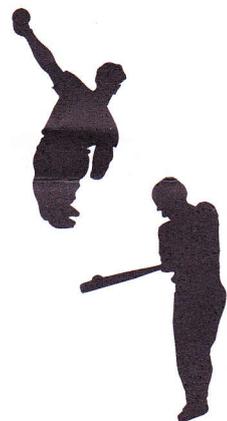
何とその大声援に圧倒されたのか、予想に反して相手投手が乱調、守備も乱れ、序盤で5点を奪った。途中連打で3点を奪われるも、持ち前の我慢強さでその後をしのぎ、後半さらに2点を追加し、7-3で快勝した。耐えに耐えての連覇、うれしさもいつそうだった。

そして迎えたインターハイ、今年には熊本県水俣市で行われた。昨年は、二回戦で8-2の大差で破れ、また食中毒という思わぬハプニングも重なり、後味の悪い終わり方をした。今年こそはと滴を持って臨んだ。

今年も昨年同様二回戦から、相手は東海大会優勝の新鋭岐阜県代

表 翔高校だった。初回思わぬミスが続き1点を奪われ、いやなムードになりつつあったが、持ち前の我慢強さで断ち切り、古高ベースに持ち込んだ。そして二回四番菅原のタイムリーで同点、続く六回死球から相手のエラーを誘い、1点を取り逆転、エース鈴木も安定し、このまま逃げ切れるかと思われた矢先、六回裏二塁にランナーを置き、2アウト2ボール2ストライクからセンターオーバーの逆転2ランを浴び、3-2で惜敗した。東北大会決勝でもホームラン一発に泣き、その反省を胸に・・・泣くに泣けない悔しい戦いであった。

その後、宮城国体に三名が出場、このインターハイの敗戦をバネに、我が校エース鈴木が宮城選抜チームのエースの座を奪い、初戦岡山県を12奪三振完封、準々決勝1春選抜、インターハイ、国体と三冠の高知県を7奪三振5安打2失点に押さえ、大活躍をした。しかし、新人大会では国体の疲れが出、決勝戦白石工業に3-2逆転サヨナラで破れたものの、三連覇に向け、大きな自信をつけたと思っている。今後ますます精進し、古高の名を全国に轟かせたいと思っている。



我らの夢は、古高の庭に芽生えて育ちゆく

宮城県古川高等学校

ホームページ
<http://furuuko.myswan.ne.jp>

所在地 989-6155
宮城県古川市南町2丁目3-17

TEL 0229-22-3034
FAX 0229-23-4621
ご質問、ご意見はこちらまでお願いいたします。
furuka_h@sn.myswan.ne.jp

平成13年度同窓会総会

同窓会事務局 阿部 勝英

平成十三年度同窓会総会は、八月十一日(土)午後二時から古川市内グラント平成において開催されました。今年度当番幹事は高八回卒、高十七回卒、高二十二回卒、高二十七回卒、高三十二回卒の同窓生諸兄でした。

六月三十日(土)、幹事学年の代表の方々に集まってもらい幹事会を行い、総会の持ち方から総会当日までの準備内容・準備日程などを確認し、分担して準備することに致しました。

記念講演の講師は、幹事の最高学年からの推薦により筑波大学名誉教授森茂樹(高八回卒)氏にお願いすることに致しました。

総会当日、開会の挨拶、叙勲された方の表彰の後、議事に入りました。活動報告、会計決算・予算、会則の一部変更、十三年度役員等の議案が原案通り承認されました。終わりに事務局から、新年会・十四年度総会等について連絡があり、無事閉会となりました。

記念講演は「アメリカに留学して」という演題でスライドをまじえて、アメリカ留学時代の様々な体験、専門の物理学のお話しなどをいただきました。なかでもノーベル賞を受賞した教授の講義のことなど興味深く拝聴致しました。専門の物理学の話はちよつと難しかったというのが、正直な感想です。

懇親会は予定を越える百三十名ほどの出席で、挨拶等も十分伝わらない程賑やかな会となり、まさに盛会のうちに終了することができました。

当番幹事諸兄に感謝申し上げますとともに、毎年のことながら在京同窓会からも遠路はるばる会長さんにご出席をいただき改めて感謝申し上げます。



本部同窓会事務局だより



同窓会事務局 狩野 宏史

▽古高古中百年史によりますと、本校同窓会は卒業生の友情を温め、相互の交流を図る目的で、第五代糟屋校長が提案し、明治四十三年(一九一〇年)七月二十四日に発足したそうです。爾來同窓会も百年を越える歴史を刻んで参りました。

▽私たち古高同窓会にとりまして大きな存在でありました伊藤宗一郎先生が平成十三年九月四日逝去されました。十月六日には、郷里の中新田町で、中新田町長 星明朗氏(高九回卒)を葬儀委員長に葬儀ならびに告別式が執り行われました。葬儀には野村同窓会長と大沼校長が参列し、野村会長が弔辞を奉読致しました。謹んで伊藤先生の御冥福をお祈りすると共にこれまでの御恩に對しまして心から感謝を申し上げます。

▽平成十三年十一月に秋の叙勲が発表されました。同窓会関係者で叙勲されました方は次の通りです。

勲四等旭日小授章

高橋 勲人(高二回) 防衛

勲五等双光旭日章

伊東 市男(中三十八回) 学校保健

勲五等瑞宝章

瀬戸 貢(中四十六回) 建設業振興

尚、在京同窓会関係者で叙勲された方がございましたら、同窓会事務局まで御一報下さいませよう御願ひ申し上げます。

▽高校第三回卒業(昭和二十六年卒)の方々が、古高卒業五十年目になることを記念して、平成十三年十一月十八日(日)に古川市内で同窓会を開催致しました。記念の名簿や校章をあしらったキーホルダーを作り、恩師の先生をお招きして盛大に開催したそうです。

▽古川高校のホームページですが、平成十三年十月に更新を致しました。各方面から様々な反響がありました。その一つをご紹介します。

「本日、はじめて母校のWebにヒットして感激です。校歌のファイナルありがとうございます。築高戦の写真を眺めながら、いっしょに歌っております。カンテル先生もお、おられないでしょうね。日本を離れて十六年になります。古川高校のOBです。菅野@Los Angeles」というメールが入りました。異国の地で聴く校歌はどのようなものでしょう。テロの恐怖に負けず、頑張ってもらいたいと思います。

▽「高校生だったおやじたちの美術展」と題し、美術部OB・十七人展を宮城県美術館で開きました。この美術館の案内状には、現在は仕事と家庭の責任を両肩にかかる年齢になったが、古高時代は「質実剛健」をスローガンに、自由闊

鞆、後輩そして恩師に囲まれた素晴らしい日々であったと書かれており、最後にこの美術展を亡き恩師・宍戸先生に捧げます。と結ばれていました。



▽本校三年の本田勇介君が、高崎市で行われた「高校生国際芸術コンクール二〇〇一」に出場し、ピアノ部門で見事第一位に輝きました。参加者はアメリカ・中国・ロシアなど世界各地から集まり、声楽・ピアノ・バイオリン・オーボエなどで熱のこもった演奏が繰り広げられました。ピアノ部門には予選に二十六名が参加し、最終審査に進んだのはたった五名で、しかも日本人は本田君一人だったそうです。この快挙に、朝日新聞、河北新報、大崎タイムスなどが取材のため学校を訪問しています。

▽平成十四年度から、学校は完全週五日制に移行し、平成十五年度からは新しい教育課程となります。古川高校は、学力の向上を目指しながら古高らしい「生きる力」に溢れた生徒をどう育てていくか、真剣に検討を積み重ねております。

▽最後にりましたが、在京同窓会の益々の御隆盛と会員各位の御健勝をお祈り申し上げます。

平成13年度総会報告

在京古高同窓会の平成十三年総会は八月五日(土)午後二時から「神楽坂エミール」で開催された。同会場は今回が五度目であった。

役員については、副会長梓の欠員補充により中川裕雄氏(昭二八卒)が選任された。

総会後の講演は前田浩五郎氏にお話いただいた。

引き続きの懇親会はなごやかに行われた。

総会で講演して

前田 浩五郎

二十一世紀はどうなるかスペインを旅して」なる題名でお話しをさせていただいた。一昨年の八月、私共の国際会議がスペインのバルセロナにて持たれ、ついでにトレド、コルトバ、セビリア、グラナダ等を訪ね、ヨーロッパのもう一つの顔を図らずも垣間見る機会に恵まれた。

その感慨を話した処、幸にしてご好評をいただき、今回の同時多発テロに事寄せてか少なからぬ方々から、「貴方の予言は当たったね、これからどうなるの? 予言してよ」等と言われ困惑している

昨今ではある。

今回の事件は長年に亘ったイスラム社会での鬱屈した怨念がテロという形で西欧社会とそれに順う形で発展してきたアジア等を含む世界の自由な民主的諸国と云われ

る国々を震撼させた形と云ったが、かなり周到に準備を進めたものようで、それだけ極めて根の深い背景のある事に改めて気付かされる。

先回のレジメを本紙にと編集担当の方から申入れがあったので、ここで改めてこれらを巡る歴史を振り返ってみる事にしたいと思つ、ご一読いただければ幸。

それは今を去る二千数百年前に遡る。地中海、黒海等を巡るヨーロッパ、中近東、北アフリカ等の広い地域で、ローマが三度に亘つてセム族を破り、カルタゴを滅ぼし初めて広大な統一国家を建設し得、更に四世紀にはキリスト教を国教とした。この政治と宗教との云わば結合が後々まで広く長く世界に様々な形で陰を落としてしまふ。

このローマも八百年続いた後の四世紀頃から東西に分裂し、之にこの頃からゲルマン民族大移動が重なつてラテン民族により謳歌されてきた古代文明は衰退に向かう。

こうして欧州は中世の暗黒時代に入る一方、パリにフランク王国が創建され、現スペインのトレドに西ゴート族王国が誕生する等の他に、同じゲルマン民族のアングロサクソン族ブリタニアに侵入して七、八世紀は欧州の主役交替の時代となる。

この間七世紀マホメットによる回教が剣とコーランを掲げて、結局七世紀から十一世紀へとサラセン文化の黄金浸潤時代を形成し得

てバクダットでの千一夜物語の繁栄を謳歌する一方、それ迄のギリシャ、更にローマ文化に彼等なりのアラビア科学等を加え、後世に伝える役割を果たす。

そして重要な事は九二九年、カリフ王国を建設したラーマン三世現在スペインのコルトバに当時のサラセン文化の粋を集めた四十万冊に及ぶ大図書館を設立した事である。之に対して欧州に定着したゲルマン民族達は、斬く農業生産向上等による政治の安定に基づく国力の増進等につれて次第に自らのアイデンティティに目覚めてか、キリスト教の原点に戻れとばかり一〇九六年以来、十字軍の遠征を以後一二七〇年に至るまで八回にも亘り派遣する一方、前述のコルドバでアラビア文献のアラビア語からラテン語への大翻訳運動がこの地で十二世紀を中心にして始り、それをエネルギーにしてか各国に

大学創立、そして次第に産業活動も活発化して自由都市国家生まれ、十三、四世紀とイタリアを中心にルネッサンスの華が咲き、続く十五世紀は大航海と発展して、一四九二年には長年のイスラムの支配も終つて、以後スペインから日本に至る五百年に亘る帝国主義時代が続く事になるが、昨世紀それも終り、植民地各国が多数独立して共産主義国台頭と思わせたがイデオロギーの対立の時代は終り、結局産業、経済に伴って発展したアメリカが世界の中心となり、アメリカナイゼーションがグローバルゼーションとなつてか、欧州、アジア

各「かアメリカ経済に寄りかかってもとにかく発展して、そのため世界同時不況になつてしまふ時代とはなり、それでも夫々経済発展の途には入つたよう。

取残されたのはアフリカ諸国と中近東のイスラム諸国等々となり、特に後者は前述の八百年に亘つた彼らなりの栄華の夢を忘れられず、石油の利権も絡んで大国の力関係に翻弄される現実の貧困に苦しみ、遂にあの大事件となつたというのが前回の話しの筋ではあつた。

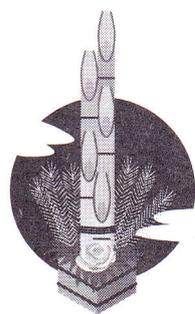
今回の事件でとにかくアッラーの神を絶対視する人々が、この地球上に生存の厳事実を改めて再確認し、今後互いに共存すべく努力すべきと人類全体で共感し合う契機への初めての出来事で、之をベイスに新しい時代に入るのであるうか。国連がアメリカに代つて有効なる世界の警察官になれるか問われる次のフェーズの時代になつたよう。PLOのヌセイベ氏のように、例のパレスチナ問題への理性的であり且現実路線で新しい方向を開くのも之からの新しい時代ではないか。

とにかく二十一世紀の始めの年に今回の事件が発生したのも、今迄に累々述べてきた歴史の必然のもたらす結果で、新しい時代に入つたことは間違いないようですよ。

吾が母校、古高の卒業生が一人でもこの世界の流れに沿う方向で国際的な貢献を果たす事をこの機会に願つて拙文の結びとしよう。

次回総会(二〇〇二年七月末開催)へのご意見、ご要望等お寄せ下さい。

大人数での楽しい総会に!



本部より
ふるさとで校歌を歌ってみませんか。

新年会のご案内

平成十四年古川高校同窓会新年会

日時 平成十四年二月六日(日)

午後三時

場所 古川市内「芙蓉園」

会費 四千元

連絡先 古川高校同窓会事務局

電話 〇二九九一三三三三四

お問い合わせの上、ご参加下さい。

平成12年度 決算報告

平成12年度 活動報告

平成12年6月1日～平成13年5月31日

<収入の部>

自 平成12年 6月 1日
至 平成13年 5月31日

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
年会費	1,133,000	1,400,000	△ 267,000	566.5口 2,000円
特別会費	1,344,000	1,600,000	△ 256,000	総会 76名・新年会 92名
広告料	298,000	400,000	△ 102,000	企業・個人広告
寄付・祝儀金	259,000	200,000	59,000	総会・新年会 祝儀ほか
雑収入	1,259	3,000	△ 1,741	預金利息ほか
収入計	3,035,259	3,603,000	△ 567,741	
前期繰越金	1,871,054	1,871,054	0	
合計	4,906,313	5,474,054	△ 567,741	

<支出の部>

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
会議費	1,463,648	1,500,000	△ 36,352	総会・新年会・役員会
印刷費	670,915	600,000	70,915	会報2回・案内・名簿
事務用品費	32,977	150,000	△ 117,023	コピー・文房具代
事務所経費	33,000	50,000	△ 17,000	年間契約料ほか
通信費	331,005	400,000	△ 68,995	電話・切手・はがき
広告宣伝費	0	0	0	
慶弔費	173,203	200,000	△ 26,797	東京雪賞・祝儀
組織強化費	33,790	200,000	△ 166,210	幹事会費
旅費交通費	104,090	0	104,090	
雑費	0	50,000	△ 50,000	
支出計	2,842,618	3,150,000	△ 307,382	
次期繰越金	2,063,695	2,324,054	△ 260,359	
合計	4,906,313	5,474,054	△ 567,741	

次期繰越金 東京三菱銀行 郵便局 現金
161,641円 1,817,667円 84,387円

会計監査の結果、以上の報告書の通り 間違いありませんでした。

平成13年6月18日 監事 青沼康男
監事 佐藤清勝



年月日	活動内容	場所
平成12年		
7月1日(土)	会報雪25号と総会案内発送	信陵会館
7月30日(日)	総会・講演会・懇親会 講師 佐々木 一司氏 (S20年卒) 「民族自決権について」	神楽坂エミール
8月13日(日)	同窓会本部総会出席 (高橋会長、普事務局)	古川市グラウンド平成
11月10日(金)	在仙古高同窓会出席 (横山副会長、普事務局)	仙台市東急ホテル
12月23日(土)	会報26号と古川市内四校合同新年会案内発送	信陵会館
平成13年		
1月21日(日)	「第8回古川市内四校合同新年の集い」開催(幹事校古川工業高) (古高から88名・古女 79名・古工 42名・古商 34名) 来賓 21名 合計264名	上野精養軒
3月1日(木)	古高卒業式並びに「東京雪賞」表彰式出席 (春田副会長) 卒業生 290名 受賞者 5名	古川市・古川高校

- ◎役員会：信陵会館
第1回 H.12. 7. 1 (土) 14名 (定例・会報発送)
(関係役員会) H.12. 7.18 (木) 8名 (総会準備)
(関係役員会) H.12. 8.10 (木) 14名 (総会反省会)
第2回 H.12.10.14 (土) 15名 (定例)
(関係役員会) H.12.12.10 (日) 6名 (四校の集い対策)
第3回 H.12.12.23 (土) 17名 (定例・会報発送)
第4回 H.13. 3.31 (土) 14名 (定例)
(関係役員会) H.13. 5.10 (木) 12名 (祝賀会下打合わせ)

- ◎四校合同打合わせ：
古川市東京事務所で、12.9.13、12.11.15、13.1.17と3回開催。
春田、曾根、菅が出席

- ◎その他：
特になし

平成13年度 予算

平成13年度 活動計画

平成13年6月1日～平成14年5月31日

<収入の部>

自 平成13年 6月 1日
至 平成14年 5月31日

科目	予算額(円)	備考
年会費	1,000,000	500口 2,000円
広告料	300,000	企業・個人広告
寄付・祝儀金	150,000	
雑収入	102,000	各種会からの受入金・利息
収入計	1,552,000	
前期繰越金	2,063,695	
合計	3,615,695	

<支出の部>

科目	予算額(円)	備考
会議費	50,000	役員会ほか
印刷費	500,000	会報・案内
事務用品費	30,000	コピー代・文具等
事務所経費	35,000	年間契約費・会議室料
通信費	300,000	電話・はがき・切手
広告宣伝費	0	
慶弔費	180,000	東京雪賞・祝儀
組織強化費	202,000	若年対策費ほか
旅費交通費	150,000	本部総会・卒業式等
雑費	5,000	
支出計	1,452,000	
次期繰越金	2,163,695	
合計	3,615,695	

年月日	活動内容	場所
平成13年		
6月25日(月)	伊藤名誉会長、熊一等旭日桐花大綬章受章記念祝賀会 四校会役員有志(古高30名、古女10名、古工7名、古商10名)	東京駅八重洲 11階ルビーホール
7月7日(日)	会報雪27号と総会案内発送	信陵会館
8月5日(日)	総会・講演会、祝賀会、懇親会開催 講師 前田 浩五郎氏 (S20年卒) 「21世紀はどんな時代になるのか」(スペインを旅して)	神楽坂エミール
8月11日(土)	同窓会本部総会出席	古川市グラウンド平成
11月中旬	在仙古高同窓会 (出席予定)	仙台市東急ホテル
12月29日(土)	会報雪28号及び四校合同新年会案内発送	信陵会館
平成13年		
1月6日(日)	本部同窓会新年会 (出席未定)	古川市
1月20日(日)	「第9回古川市内四校合同新年の集い」開催 (幹事校古川商業)	上野精養軒
3月初旬	古高卒業式並びに「東京雪賞」表彰式(出席)	古川市・古川高校

- ◎役員会：
定例は年間3回、その他事案により関係役員会を開催

- ◎四校合同幹事会：
新年会にむけて、7月6日(金)から3回程度開催。

- ◎その他：
未定

(注) (1) 従来、新年会・総会費用を会議費で処理してきたが、今年から独立会計として分離し、別途報告します。
(2) 前項の措置により合計額について、前年度実績対比はできないので、今年度予算案だけとしました。
項目別実績については、12年度決算報告を参照して下さい。
(3) 年会費は、実績を勘案して500口としました。
(4) 組織強化費には、若年者対策費15万円を計上しました。

会員による自由投稿

私の柔道一代記

顧問 半田 実

私と柔道のつき合いを語ると、これほど長いものはないし、自慢話になる心配もあって今迄一度も文章にしたことはない。しかし、副会長の春田君が顔を合わす度に「書け、書け」と言ってくれるので、自分史の一部を記録に残すのも悪くないなと思うようになって書くことにしました。

先ず順を追って、私が柔道にのめりこんでいくきっかけから書かせていただきます。

私の出身の不動堂小学校時代にさかのぼります。もちろん当時小学校に柔道はありませんでしたが、相撲は盛んであった。読売新聞社主催宮城県下学童相撲大会の五、六年の部で準優勝したことに始る。これによって自分の体力と運動能力に自信を得たことが非常に大きかったと思います。更に縁は奇なもの、この当時の指導者だった小野寺源吾氏が後に岳父になるというのも不思議な出会いと云わざるを得ない。

前置きが長くなってしまったが、いよいよ憧れの古川中学校に入学したのは、戦争たけなわの昭和十七年であった。この年古川中学は、開校以来初めて柔道大会で優勝という偉業に輝いた年であり、私の柔道人生は玉水、三浦、家喜とい

う稀有な人材の敵しい拵のもとに開花することができたと云えると思います。当時異例の二年生で黒帯をいただいた感激は今も忘れられません。

ところが、二十年敗戦による占領政策のため学校での柔道は一切禁止となり、私の夢は大きな壁に当たったかみえたが、幸い小学校時代の相撲は許されており、たので、これに反することで基礎体力と格闘神経は維持することができました。

第六回広島国体に県代表で出場したのもこういう背景があったからであつたと思います。

いよいよ学校柔道が解禁になったのは、昭和二十六年四月である。この時、私は東北大学理学部に在学していましたが、警察柔道は存続しており、仙台北署の道場でひそかに稽古しておつたこともあり、ただちに大学柔道の復活に動きました。

復活柔道部の設立を果たすと同時に、東北地区学生柔道大会を主導し、東北大学主将として団体、個人共に優勝することができた。いよいよここから本格的な柔道人生がスタートしたわけであり、昭和二十六年と云えば、仙台は戦災の傷跡も深く残っており、食糧も乏しく、思い切った練習は無理であり、環境整備に悩まされた想いが深い。

そうこうするうちに東北大学には旧制高校の柔道部長経験者がいたり、仙台二高を始めとする新制高校柔道部長が入学して来たりして、結構まとまりの良い柔道部が出来上がって来た。忘れもしない昭和二十七年十二

月二十日、京都大学において第一回旧制七大学柔道大会が開催された。下馬評では、東大が圧倒的に強く、次いで京大、九大が候補にあがっていた。結果的には、決勝戦は東北大と京大となり、東北大が二人残して優勝となったが、予選での東大戦が事実上の決勝戦であつた。両者互角に接戦の末、遂に大将決戦となった。東大の片桐主将は、東京学生柔道界でも屈指の闘将として聞こえており、私もそのときばかりは必死の思いで対戦したことを覚えている。結果は延長戦の末、私の背負投が決まり一本となった。この大会に出場した各校の選手は卒業後も社会人、官界、政界において一流人を輩出したこともあり、第一回大会優勝校主将としていろいろな面で私の人生に重要な関係をもつことになった。このほか、当時学生が出場できるすべての大会に東北代表として出場したが、これだけは是非書かせていただきたいことがある。

第七回会津国体に県代表として出場した。宮城県は当時、玉水五段、千葉五段という全国屈指の選手を擁して三回戦で東京と対戦した。私の対戦相手は、当時明大主将として学生チャンピオンであった曾根康治選手である。後に全日本チャンピオンとなる選手であり、私ごときは到底相手ではないと思われていた。

しかし、私はここで意地をみせたい。なんと私の得意とする背負投に飛んだのである。しかし、もう一寸足らず、判定は技有りであった。ここで、今でいう組手争いをやって、時間稼ぎをやれば私の勝であるが、逃げるのは男の恥と思

い、引かず残り時間一杯大外刈で敗退する結果となった。この当時、東北柔道界では、古高出身者が大活躍していたことも特筆すべきことである。例えば、全日本柔道選手権大会で活躍した玉水実さん（昭十八年卒）、東北学生柔道界で無敵を誇つた東北学院の春田兄弟、警察柔道界で活躍した現宮城県柔道連盟副会長で東北大学師範の堀越五郎七段（昭三十年卒）などが居て、非常に心強く楽しい時代であつたと思う。昭和二十八年三月、私は東北大学を卒業した。この年は新制大学と同時に卒業したため、就職環境はことのほか厳しかったが、全日本学生柔道連盟理事長早川勝氏の推薦を得て三菱鉱業に入社することができた。

この後は、社会人柔道に参画し、第一回全日本産業別柔道大会（昭二十八年）に石炭部門から出場した。この大会には前出の曾根選手も出場し、お互いに顔を合わせて「よお」という感じの挨拶を交わしたのも、一つの思い出である。

昭和三十五年当時脚光を浴びていたアラビヤ石油に転出し、アラビヤ石油で現地人や軍人、警察官に柔道指導に情熱を注いだのも若い日の忘れがたい思い出である。

最後に昭和五十六年国際武道大学構想が持ち上がり、私にも参画せよとの声がかかった。発起人は、私の東北大学柔道部の先輩である松前重義（東海大学総長）、安西浩（東京ガス社長）の両先輩である。私は、私の柔道人生の成果をこの両先輩と共に実らせることが出来たら最高の幸と思ひ、理事としてお手伝いすることとなって今日に至っている。その間講道館柔道六段を昭和六十年に授与された。以上私の柔道一代を書かせていただきましたが、柔道の神髄は嘉納師範の「精力善用、自他共栄」にあります。この言葉の意味をもう一度深く噛みしめて私の拙文を終わらせていただきます。

至っている。その間講道館柔道六段を昭和六十年に授与された。以上私の柔道一代を書かせていただきましたが、柔道の神髄は嘉納師範の「精力善用、自他共栄」にあります。この言葉の意味をもう一度深く噛みしめて私の拙文を終わらせていただきます。

この後は、社会人柔道に参画し、第一回全日本産業別柔道大会（昭二十八年）に石炭部門から出場した。この大会には前出の曾根選手も出場し、お互いに顔を合わせて「よお」という感じの挨拶を交わしたのも、一つの思い出である。

昭和三十五年当時脚光を浴びていたアラビヤ石油に転出し、アラビヤ石油で現地人や軍人、警察官に柔道指導に情熱を注いだのも若い日の忘れがたい思い出である。

最後に昭和五十六年国際武道大学構想が持ち上がり、私にも参画せよとの声がかかった。発起人は、私の東北大学柔道部の先輩である松前重義（東海大学総長）、安西浩（東京ガス社長）の両先輩である。私は、私の柔道人生の成果をこの両先輩と共に実らせることが出来たら最高の幸と思ひ、理事としてお手伝いすることとなって今日に至っている。その間講道館柔道六段を昭和六十年に授与された。以上私の柔道一代を書かせていただきましたが、柔道の神髄は嘉納師範の「精力善用、自他共栄」にあります。この言葉の意味をもう一度深く噛みしめて私の拙文を終わらせていただきます。



右 東京ガス社長 安西浩
左 東海大学総長 松前重義

『若い時だけが青春!!』
30年卒 門脇喜代志
じゃない

第二回「首都圏古高三十年卒同期会」を一年振りに催しました。

この会は、東京を中心とした関東周辺に在住する古高同期の会で、すが、今回は「今が青春だ!」のテーマの下、羽を広げ、東京以西の愛知・大阪の同期生たちにも呼びかけ、その結果、同地区から三

名、又、風の噂で耳にした古里・古川の友二名の友情特別参加もあり、合計三十四名の同期会を開く事ができました。

今回のテーマに因んで会場は、戦中は出兵や若き学徒出陣の壮行式を、又、戦前・戦後の平和な時代には、息吹く青春のスポーツ競技が行われ、昔も今も、青春の血潮を沸かさせている緑豊かな神宮の杜の一郭にある「日本青年館」で行われましたが、控へのホールは開始前から想像通り、青春六十五歳の熱気（七十代は七十代の青春が有り、人生、生活しているからには、その時その時が青春である）で盛り上がっていました。

同期会本番が開幕し、第一部の式典の後は歌あり芸あり、酔いが増すにつれ、更に会話も滑らか、話す声もオクターブが上昇々々。又、円卓の座席も乱れだし、友の席は俺の席、俺の席は誰かの席と右往左往の混雑振り。

学舎を共にし、様々な分野に散らばって以来四十六年、その間の人生行路や、又、今だから話せる学生時代の事等を、かつての部活の仲間、或いは通学の仲間との話らしいの熱中と響声は致し方あるまい……。

話も盛り上がっていても未だ充分話し尽くせぬなか、無情にも制限時間となり、二時間半に渡る六十五歳青春の一コマに幕を下ろさざるを得なくなり、フィナーレ「図南歌」で綺麗に纏め終了となる。

みんな健康に留意し、今回の様な元気な姿で「次回の同期会も参加するんだ！」の目標を互いに誓い合い、固い握手々々で解散しました。



名札（卒業時の写真付き）が好評でした

第十二回卒業還暦の集いと道南三都観楓の旅

蛍雪の章を掲げ万だの桜の下青春を謳歌した三十五年卒同期生が還暦を迎え、九月十五日秋保温泉に四二年振りに名の懐かしい面々が集合した。

会に先立ち、物故者への万感の心からの黙祷を捧げた後、三浦優君の司会により母校校長大沼康哉君のあいさつ、母校の状況、取り組み、念願の集いが還暦の年に実現したこと経過と喜びを満面の笑みで報告した。次に三人の恩師、鈴木（弘）先生、岡本（一）庄司

（芳）先生を囲んで、大崎耕土で送った三年間の思い出話しや、還暦を迎えるまでの過ぎし日々を語り合い、楽しく時を忘れ、賑やかな会であった。

（文責…佐々木武麿）



最後に校歌を高らかに合唱し、同期の一層の和を広げ、再会を約して散会した。

昨夏、三五会会員の中で誰言うともなく還暦を祝えるような記念旅行が取り沙汰された。錦織りなす道南三都（小樽・札幌・函館）観楓の旅がこうしてさまり、結城・北村両君を中心に二泊三日の旅が準備された。

タイム。まず腹ごしらえに地元ならではの食材を贅沢に配したサシミを肴に、クラシカルビールで乾杯。珍珠内子、ソイの寿司を頬張れたのは幸の極。北一ガラスを横目で眺め、銀の鐘でコーヒールを啜った後、次に目指すのは藻岩山の夜景。眺望絶佳、満天の星、漆黒の中に煌く無数のイルミネーション。

分け合って、宿の飯をぐつと我慢、朝市の超豪華な海鮮丼に挑戦。本物の味に全員舌を巻く。結城君の長年の知友、海産物社長が選りすぐったカニや海の幸を土産に、皆ご満悦の態。その後函館市内観光には、タツプリ時間を費やし、打ち上げは「波止場ビール」での飲み放題となった。空港への途上、佐々木武麿君が「アリガトウ節」を披露。運転手、ガイド、添乗員の感激を誘ったのは快哉事であった。九時、早い時期の再会を約して解散。我々の「還暦を祝う旅」多くの感動を残して無事に終わった。

（文責…三五会事務局長峯岸 宗）



謹んで新年のお慶びを申し上げます



謹賀新年

会長

高橋 淳夫

副会長

春田 紘輔

横山 榮治

曾根 研一

中川 裕雄

会計担当

菅 昇

個人広告

嫌われないこと。自分がして欲しくしていないことは相手にも押し付けない。こんな言葉をこの一年大切にしたいと思っています。

昭30卒 渡辺 吉郎

明けまして

おめでとございます。

還暦を迎え本年も穏やかに過ごしたいと思っております。

昭35卒 岩崎 光任

還暦まで二年、百名山残十四。今年は七つを予定。

「蛭雪」への協力お願いと感謝。

昭37卒 千坂 孝夫

“人と企業の絆を求めて!!アウトソーシングを
パルスタッフ株式会社 支援する”

代表取締役 渡 邊 道 雄

S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821
E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)

税 理 士 青 沼 康 男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書・図面・写真・音声・映像を簡単にCD-ROMにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
文字情報入出力 プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷

株式会社 ケーヨー

代表取締役社長 早坂 清吉 (昭和29年卒)

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル-0035
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
卸売部 電話 (3739) 2468
FAX (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション
HOT Line 090 32026393

110m²新時代

110m²マンション
「セントレジアス大森」



HUMAN USER COMPANY

HUSER

100m² Leading Company

株式会社 ヒューザー

(旧社名: 株式会社ハウジングセンター)

〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4

☎ 03-5430-0021 (本社)

古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノエイブ 100-11階-0031
TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
FAX 045-953-3894 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

森谷建設株式会社

代表取締役 森 谷 侑 一

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市大字大間木2395
TEL 048-874-2610

あの長嶋さんの引退セレモニー

副会長 曾根研一



長年にわたってプロ野球ファンを魅了してきた長嶋監督が勇退した。だがここでは、この度の監督の引退セレモニーではなく、選手として引退したあの昭和四十九年の話である。長嶋さんが古高の同窓会誌に登場する訳は？ それは、拙文の最後に記す。

私も同じ東京六大学で同世代を過ごしたので、対立教戦での長嶋のプレーには、いつも魅せられたものだった。当時の神宮はいつも満員だったので、内野席の一番上で立ち見で応援することが何度かあった。打つ方も凄かったが、三塁線のゴロを横っ飛びで捕球し、一塁に矢のような送球をするプレーの方が、今でも強烈な印象として残っている。

学生の頃、盆暮には渋谷のデパートでアルバイトをしていたが、配属されたのがお酒売場だった。昭和三十二年の暮れ、巨人と契約を交わしたばかりの長嶋選手が、ここに面白い物に見えたことが二度あった。二度とも買い求めたのは「ブラック&ホワイト」だった。当

時の法政の遊撃手で、卒業後はノンプロの三菱重工でプレーすると言っていた「志貴」という選手が、やはりこの売場にアルバイトきていたが、長嶋選手と六大学で同期だったこともあって顔を合わせると、売場の隅で立ち話をしていた。

本題と離れるが、このお酒売場に、クラシック音楽が好きで時々渋谷の名曲喫茶「ライオン」に行くという新人の女子社員が居た。私も週に何回かはこの名曲喫茶に行っていたので、その内に一緒に同店に行くようになり……、生涯の伴侶となつている。

当時は木造の安アパートで、クラシック音楽を大音響で聞くことなどできない時代。勿論、音響設備なども持ち合わせていないので、一杯六十円のコーヒード、時にはリクエストをして好きな音楽を聴いていたものだった。グリーンクラブ時代の仲間達とも、よく一緒に通ったし待ち合わせ場所にも幾度となく利用した。

渋谷にある同窓会事務局・信陵会館の近くに「マークシティ」が建ち、その四階からこの名曲喫茶「ライオン」が近くになったのを知り、昨年、NHKテレビで老舗の名曲喫茶として紹介・放映されたことを思い出し、機会があったら約四十年振り位に行ってみようかと思っていた。

昨年七月六日、渋谷（会堂で

「題名のない音楽会」のリハーサルが四時頃終わり、六時から四校新年会の会議が信陵会館であったので、その空き時間に同店を訪れてみた。驚いたことに外観も店内も、そして椅子の配置まで昔と同じだった。学生時代によく座った二階正面の席に着いた。毎日午後三時と七時に演奏される月毎のプログラムの形も昔と同じだった。中を開くと、レイアウトも四十年前と全く同じだった。さらに驚いたことには、なんと三日後の七月九日に演奏されるプログラムに娘の名前があった。その夜、これを妻に見せたが若かった時代が蘇つてきたのだった。

思い出をたどると尽きないので本題に戻ると、昭和四十九年十月十四日の朝、文化放送の駒井ディレクターから電話がかかつてきた。なぜ読売系以外の放送局から頼まれたのか今でも理解できないが「今日の長嶋の引退試合に合唱団を入れてほしい。『螢の光』を歌ってもらいたい」。私は急遽十二人のコーラス（東京混声合唱団）を揃え、試合中盤に後楽園球場に集合した。

バックネット裏で対中日戦を観戦したあと、係員の誘導で九階裏に一塁の巨人のベンチに合唱団全員が座らされた。なんと試合中に巨人の選手と一緒にベンチに座るなんて、生涯に一度しか経験できないことだと思つた。今でも時々「我が巨人軍は永遠に不滅です」の映像をテレビで見ると、私はその勇姿を一塁ダッグアウトから見ていた。長嶋選手がマウンド上でマイクを離し、ホームベース方向に歩いて他の選手と涙の握手を交わ

伊藤前会長を悼む

会長 高橋 淳夫

伊藤宗一郎前会長は九月四日早朝、ご逝去になりました。謹んで哀悼の意を表します。

惜しんでも惜しんでも惜しみ足りない人を失つた思いです。国政愈々難しい時期であり、又郷土の輝ける星としても、もう少し天命を頂きかつた思いで一杯です。

葬儀委員長小泉首相の海外出張のご都合で、五日青山葬儀所で厳そかに葬儀が執り行なわれました。首相経験者、各政党党首、国務大臣、国会議員始め朝野の名士、国許からの方々が参列され、元防衛庁長官として儀仗兵による葬礼もあり誠に立派な葬儀でした。第二

高等学校同窓生による寮歌も奉唱され、こんなにも悲しみを誘われるものかと感ずる一幕もありました。古高同窓会からも十人近く焼香されたと思います。

ご承知の通り伊藤先生は春の叙勲で、勲一等旭日桐花大授章を受

けておられ、輝かしく名譽のことでもあり、九月十七日帝国ホテルで大祝賀会が予定されていたのですが、急遽偲ぶ会に変更になり、同窓会からも参加させて頂きました。憶い返しますと先生は小生の一年先輩であり、秀才の誉れ高く、身体も頑健、近年もお年を感じさせないご活躍を続けておられました。国会議員として、国務大臣として、三権の長衆議院議長としての数々のご功績は枚挙に遑ありません。一面母校への念い、郷土愛も心からのもので、教えられたことと多大でした。我々後輩からみても、政治家として稀に見る清廉高潔な人格と気さくなお人柄は敬愛の的でした。古高に学ぶ者誰しも輝ける星、お手本として仰ぐことでしょう。

戦後六十六年、焼土からよくぞ此処まで日本をもつてこられたものとの思いも深い。先生は政界で長い間ご活躍され、国事に奔走されました。その心労は私達の想像以上のものだったに違いありません。有難うございました。今は安らかに眠り下さい。 会長

編集後記

ふつと思つた疑問。一月一日号でなくて十二月三十一日号でもいいのでは。

・「巨星去る」の二〇〇一年在京同窓会。

・うらやましき三十年、三十五年会。同窓会は出会いと再会・感動の場。